令和7年度学校評価中間報告

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価
学校行事 （総務部）	・行事を見直し、生徒の実情にあったものにする。 ・行事の意義を明確に認識させ、それに伴った所作、行動をとれるようにする。	・集会を放送で行ったり別の形で発信したりし、精選を行う。 ・行事の前に行事の意義や身だしなみ、所作の指導と歌唱指導をおこない、校歌等をしっかり歌えるようにする。	・関係分掌と学年と連携をした身だしなみ指導、所作指導をすすめる。個々に場に応じた姿勢・行動が主体的にとれるようにする。	７月の全校集会は終業式と日数が離れていないため、年間計画にあったが実施しなかった。前年に前後の行事からバランスよく予定を立てるべきだった。
学習指導 （教務部）	・個別最適な学びの実現 ・授業研究の推進 ・図書館利用の推進 ・業務の効率化	・授業の予習・復習でスタディサプリを活用する。 ・教科会等で評価材料を精選する。 ・イベント等を通じて図書委員会を活性化する。 ・図書館を活用した学習活動を提案し、利用促進につなげる。 ・役割の適切な分担や業務の精選をおこなう。	・生徒一人一人の学習状況に合わせて取り組ませる。 ・生徒を多面的に評価できるよう工夫する。 ・評価材料を生徒に周知して学習意欲を向上させる。 ・図書委員がリーダーシップを発揮できるようサポートする。 ・Share Point内データ、スクールエンジンの活用、他分掌との連携を進める。	・スタディサプリは日常的に課題配信や単元テストなどを利用するなど活用が進みつつある。今後は生徒各自の取り組みが進むようにより工夫していく。 ・６月の授業研究月間は参観数が思ったほど伸びなかった。授業力の向上と活発な意見交換を目指し雰囲気を醸成していきたい。 ・評価の３観点のバランスにやや偏りがあった。多面的な評価に向け、授業内の見取りや言葉による振り返りを意識していく必要がある。 ・図書館イベントは、開催の周知と参加数増加についてより効果的な方法を検討していきたい。 ・業務の効率化を進めるため、Sharepoint、スクールエンジンを日頃から活用した働き方を声掛けしていきたい。
進路指導 （進路指導部）	・生徒個々の進路実現のために学年や教科と連携を図り、最新かつ最適な進路情報の発信に努める。 ・生徒の自己肯定感を育み、キャリア教育の充実を図る。 ・生徒の学力向上に努める。	・定期的な進路委員会等の開催によって、生徒が進路資料室を利用する機会を増加させ、生徒個々の進路実現意識の向上につなげる。 ・オープンキャンパスや大学出前講義等をきっかけとして、生徒個々の進路について多角的に考察する機会を設ける。 ・授業で生徒の知的探究心を育み、学力の向上を図る。	・進路資料室の環境整備に努める。 ・進路情報の精選に努めるとともに、分掌と学年団の連携を密に図り、場面に応じた進路情報を学年と共有する。それによって、より「調和のとれた進路指導の構築」に努める。	・進路資料室に来室する生徒は増加傾向である。３年生だけでなく２年生も積極的に利用している。ただ、「進路委員会」は部分的開催になっているので、定期開催によって生徒の進路資料室の利用へ繋げたい。また、進路指導室前廊下の掲示物を昼休みや業後に閲覧をする生徒の数も増加している。 ・進路指導室や資料室の環境整備は良好である。
生活指導 （生徒指導部）	・学校が、安心、安全な場所であるためにも学年、分掌間で積極的な情報交換、情報共有を行い、学校全体で指導を行うよう努める。 ・遅刻、欠席、早退を減らし、基本的な生活習慣の確立に努める。 ・身だしなみ指導については、幅広い視点で生徒を観察し学校全体で取り組む。	・学校全体で、日頃から生徒の様子をしっかり観察し、ちょっとした変化に気付ける生徒指導を心がける。声かけや保護者との連絡を密にして信頼関係の構築に努める。 ・安易な・遅刻や欠席をさせないよう指導を徹底する。 ・身だしなみ指導については、今年度より、考査中にテスト監督によるチェック方式を導入し、幅広い視点で生徒と向き合い、再指導を含めしっかりやり切る。	・生徒や保護者との信頼関係を構築する。 ・生徒達が、学校を安心・安全な場所とし、学習や部活動に専念できるようにする。 ・分掌、学年と連携し、生徒指導にあたる。 ・地域に支えられて教育活動をおこなっており、地域から信用・信頼される行動をとれるようにする。	今年度、分掌の再編で生徒指導部の人数が減り、心配された部分があったが、学年との連携を強化し、生徒の些細な変化に素早く動けた。 もう少し養護教諭との連携を強化し、生徒の内面をカバーできるように心がける。
いじめ防止対策の推進 （生徒指導部） （教育相談）	・いじめの未然防止に関わる取組を充実させる。 ・いじめの早期発見し、適切に対応する。	・全校生徒を対象にした人権講話を始め機会ある毎に、相手を尊重し、円滑な関係を築き上げることの大切さを伝えていくことでいじめを自発的に防止する態度を育てる。 ・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践していく。	・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践できるようにする。 ・生徒は、命の大切さ、他人を思いやる気持ちをもてるようにする。	・生活状況調査により、いじめの兆候を早期に発見し早期に対応できた。 ・講話やLT等で他人を思いやる気持ちの大切さを話してきた。今後も継続して行っていきたい。
生徒会活動 （特活情報担当）	・生徒の自立を目指し、学校行事や生徒会活動を意欲的に実施する。 ・年間の業務を見直し、時代に合った分掌業務の整理を心掛ける。	・生徒会の年間計画や部活動の運営を現在の実態にあうよう見直しをする。 ・生徒会執行部役員を中心に各種委員会・関連実行委員会の連携を含め、積極的な活動をすすめる。また、学校行事の来年度の検討を自ら進められるように促す体制をめざす。 ・生徒会室、生徒会倉庫などの整理整頓と物品の管理をする。	・北高生の将来のあるべき姿を思い、生徒自らがすすんで行動し、社会に求められる人材になるよう配慮する。 ・生徒会業務の振り返りを中心に業務に再配分を意識して活動する。 ・わずかな実績づくりから各委員会活動をすすめ、生徒が実感を感じる委員会活動を目指す。 ・学校行事は、生徒自ら運営していくようにする。	・１年間で最大行事である北斗祭も終わり、後期の振り返り時期に入ってきた。後期執行部役員を中心に来年度の学校行事がどのような形であるべきか、可能な限り生徒主体で検討させていきたい。

ＰＴＡ活動 （総務部）	・ＰＴＡ行事を見直し、持続可能な活動にしていく。	・ＰＴＡ研修会の在り方を見直し、生徒に関わる活動を充実させる。 ・ＰＴＡ新聞を発行することで、取組への理解と協力を得る。	・一宮北高安心メールとホームページの連携を深め、活動や行事の案内を適宜掲載することでできる限りの周知を行う。	・ＰＴＡ総会の資料をデータで配信し、ＰＴＡ研修会は実施しなかった。北斗祭ではＰＴＡ会長を中心とした模擬店での活動があり、多くの理事の方々の協力を得ることができた。 ・来年度に向けてＰＴＡ総会、新聞の在り方について見直したい。
防災 （総務部）	・災害時に安全を確保し、円滑に応急対策をできるよう防災体制を見直す。	・防災避難訓練と防災学習（シェイクアウト訓練）を実施し、生徒に防災に対する意識を高めさせる。 ・より具体的な対応を記載した防災体制を作成し、教職員それぞれが周知できるようにする。	・災害発生時間帯、気象条件等できるかぎりの諸条件を考慮し作成する。特に、安否確認と保護者への引率手段、生徒の安全確保対策を確立し周知する。	防災セミナー、地域活動への参加をした。代表生徒から全校に防災意識を高めていくための活動を来年度に向けて行っていく予定。
学校保健 （保健部）	・生徒の自己の健康を管理する能力を育成する。 ・学校生活への適応が難しい生徒について関係諸機関と連携する。 ・自ら周りの環境を整える力を育成する。	・保健だよりを用いて生活習慣の確立についての情報発信を行う。 ・健康診断により病気の早期発見や早期治療を促し、健康の保持増進を図る。 ・毎朝担任による健康観察を実施する。 ・不適応が見られる生徒について、職員間の情報共有を密にするとともに、SCやSSWと連携をして適切な支援の方策を探る。 ・教室環境や身の回りの整備を日頃からよびかけるとともに、清掃点検を実施する。	・学校評価アンケート等で、良好な数値または取組の評価を得る。 ・受診が必要な生徒には、保護者会等も利用して受診の必要性を訴える。 ・生徒の心身の状態を観察することを怠らず、個々の状況に応じた援助ができるようにする。 ・環境美化意識をもった行動ができるようにする。	・不適応が見られた生徒について、相談を行ったり、SCにつなげたりすることができた。引き続き学年等と連携をとり、対応していきたい。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止 （安全衛生） （保健部）	・在校時間の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図る。 ・教職員のメンタルヘルスの保持に努める。	・部活動指導ガイドラインの順守に努める。 ・１か月間の時間外労働が45時間を超える教員に対して、業務の適正化を検討し、関係各所に協力を求める。 ・行事の精選を検討する。	・在校時間の状況記録の結果から前年同月比で時間減少させる。 ・安全衛生委員会のアンケート調査等で、良好な数値または取組の評価を得る。	・１か月間の時間外労働が45時間を超える教員に対して、面談を実施し、現状把握と次月の時間配分の確認を継続する。 ・４～９月において、45時間を超える延べ人数は、42人(R6:47人、R5:70人)で減少傾向となる。
ICT活用 （特活情報部）	・対話的で深い学びを実践できる授業が行えるように、ＩＣＴ機器の利活用を促進し、物品管理を適切に行う。 ・生成AIのテスト校として、授業・校務ともに利用を積極的に行い、より良い業務環境を目指す。	・ＩＣＴ機器の整備を進め、教員が気軽にＩＣＴ機器を使える環境を整えるとともに、物品の管理を適切に行う。 ・情報推進委員会や教科主任者会を通して、各分掌・各教科に担当者を設置し、各担当で実施・報告を行う環境を整える。	・各教員・生徒がどのような形で利用するかは千差万別なため、ICT機器ならびアプリケーションの紹介・普及を積極的に行う。 ・物品のリスト作成と点検整理を定期的に実施する体制を作る。 ・各担当に任せきるのではなく、ICT支援員や研修を通して、生成AIの利用方法の周知を図る。	・２学期よりロイロノートをはじめ、諸先生方にも活用していただいている状態である。また、各HRにプロジェクター設置を整理したことにより、授業準備を円滑にできている。後期は生成AIをどのように使用していくかのガイドライン作成が課題であると考えている。
第１学年	・「自律と挑戦」を学年目標とし、学習指導や生徒指導、進路指導の充実をはかる。 ・「自律」は基本的生活習慣の確立、思いやりの心の醸成を目指す。 ・「挑戦」は学習や探究活動など、高校生活での新たな挑戦を後押しする。	・挨拶、身だしなみ、時間の厳守といった高校生活上の規律を遵守できるように指導する。 ・LTや学校行事を活用し、相手の立場や思いを理解しながら、協力して一つのことを成し遂げる場面を取り入れる。 ・新しいことに挑戦する大切さを、ホームルームや学年集会時に伝え、生徒の気持ちの変容をはかる。	・教員が生徒とコミュニケーションを密に取り、普段の生活にも目を配りながら、学習指導や生徒指導、進路指導を実施する。 ・生徒指導や教育相談での事案が発生した場合は、教員間の「報告・連絡・相談」を徹底し、担任から学年主任、分掌主任、管理職と組織として連携し、対応したい。 ・学年団の教員全体で、生徒の挑戦を支援できるように心がける。	・楽しく学校生活を送り、学習や探究活動、部活動、学校行事などで「新たな挑戦」に取り組んでいる生徒は多い。 ・規律の遵守や基本的生活習慣の確立で困難を抱える生徒を、引き続き指導・支援したい。 ・高校生活に慣れが出てきたので、引き締める所は引き締めて落ち着いた集団生活を送らせたい。
第２学年	昨年度に引き続き「最高の普通」を目指して、以下の３点を重点に行いたい。 ①学校で決められているルールを守る。 ②一歩先の未来を合言葉に、時間の意識をする。 ③公の場面でも通用する身だしなみを追求する。	①北高HANDBOOKに基づき、改めてルールの周知徹底を図ると同時に、生徒の規範意識の向上に努める。 ②始業時間や授業の開始時間、提出期限などの時間設定を守るだけでなく、欠席や遅刻などが昨年度から少なくなるように、学年団で声かけを行う。 ③高校入試や入学式の時の身だしなみを思い出させながら改善を目指す。	①教員側も学校のルールを理解し、そのうえで生徒を指導していく。 ②昨年度、欠席や遅刻が増えたため、社会人として成長することを視野に入れながら指導し、昨年と比べて減少傾向にできるように努める。 ③ＳＴや授業の開始と終わりのところで身だしなみを整えさせるとともに、放課中の過ごし方にも目を配りながら、注意できるようにする。	・欠席が昨年度と比べて減少傾向にあるが、遅刻は前年と比べて増加傾向にある。２学期以降は改善できるようにしたい。 ・身だしなみを整える意識は持つようになったと感じているが、夏の時期にシャツを出す生徒が目立ち始めた。今後も気を付けながら、指導したい。

第３学年	・生徒一人ひとりが自分の可能性に挑み、未来を切り拓く力を養う。進路実現を見据えたキャリア教育の充実と、課題発見・解決型学習の推進を図る。 ・基本的生活習慣（挨拶・時間厳守等）の確立を基盤とし、自立心を育むとともに、協働・共感を大切にする姿勢を養う。 ・社会の一員としての自覚を持ち、自己を客観視しながら、自らを律し、目標に向けて継続的に努力できる力を育成する。	・挑戦する姿勢の育成に向けては、探究活動やキャリア教育を充実させるとともに、進路に応じた個別支援や模擬面接、小論文指導等を通じて、生徒の主体的な進路選択を支援する。 ・規律と自律心の育成については、挨拶運動や生活点検を継続し、HR活動での振り返りを通じて生活習慣の見直しを促す。また、ICT等を活用し、生徒の自己管理能力を高める。 ・成人としての自覚の育成に向けては、地域行事や学校行事への参画を促進し、模擬選挙や社会課題に関する学習を行うとともに、情報モラル教育の強化を図る。	・挑戦する姿勢の育成においては、生徒との対話を重視し、進路情報の提供に偏りが生じないよう配慮する。 ・規律や自律心の育成では、管理的指導に頼らず、生徒の納得と内発的動機を引き出す工夫を行う。また、違反行為への対応は個別的かつ継続的に行い、成長につなげる。 ・成人への移行に向けた指導では、権利と責任をバランスよく伝えるとともに、家庭・地域との連携を意識した支援体制を整える。	・進路目標の早期設定と実現に向けた計画的な支援を進めており、生徒の進路意識の向上が見られる。探究活動や課題研究においても、自ら課題を見つけ、協働して解決策を考える取組が定着しつつある。一方で、探究の成果を社会とつなげる発信力の育成や、自己の可能性をより主体的に広げる姿勢については、今後さらに工夫が必要である。 ・日常の学校生活を通して、挨拶や服装、時間意識の定着が図られており、多くの生徒において生活習慣の改善が見られる。しかし、一部には気の緩みや受け身の態度も見られ、自立した行動が十分でない生徒もいるため、引き続き指導と支援の両面から取り組む必要がある。 ・学校行事や地域貢献活動を通して社会の一員としての自覚を高める機会を設けており、多くの生徒が責任感を持って行動するようになっている。一方で、自己管理力や継続的な努力に課題を残す生徒もおり、自己評価や振り返りを通して成長を自覚できる仕組みづくりが今後の課題である。